

■ 概況

11/21~11/27のNYMEX・WTIは、57.77~58.58ドルの範囲で推移した。

11月28日は、感謝祭休日ため休場。

週末29日は、香港人権法案へのトランプ大統領の署名で、米中貿易協議の先行き懸念が高まるとともに、ノバク露エネルギー相のOPECプラスの協調減産延長の検討時期尚早発言、さらに、9月統計で米国が石油の純輸出国になったとの発表があり、大幅に続落した。1月限終値は前営業日比2.94ドル安の55.17ドル。

週明け2日は、イラクのガドバン石油相の5日からのOPRCプラス会合で約40万b/dの減産強化を検討中との発言、さらに、中国の堅調な経済指標の発表で、3営業日ぶりに反発した。1月限終値は前週末比0.79ドル高の55.96ドル。

3日は、今週末のOPECプラス会合で40万b/dの減産幅拡大を検討される見通しとの報道を好感し、続伸した。ただ、トランプ大統領が、米中貿易協議の合意の来年秋の大統領選後への先送りを示唆したことから、上値は抑えられた。1月限終値は前日比0.14ドル高の56.10ドル。

4日は、米国エネルギー情報局(EIA)の原油在庫週報で、原油が前週比490万バレル減と市場予測を大きく上回る取り崩しの報告、5日のOPEC総会・6日のOPECプラス閣僚会合での現行減産協定延長・減産拡大の合意への期待感から、大幅続伸した。1月限の終値は前日比2.33ドル高の58.43ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は11月21日~27日の間62.00~63.80ドルの範囲で推移した。11月28日63.40ドル、29日63.00ドル、12月2日

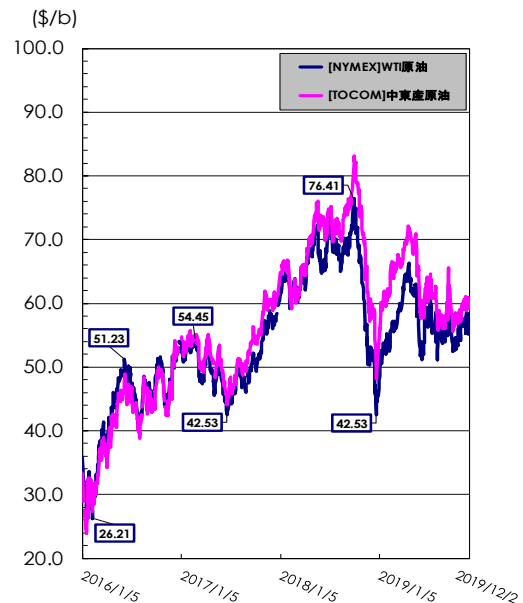
60.70ドル、3日60.60ドル、4日61.00ドルで推移した。

為替は11月21日~27日の間108.42~109.14円の範囲で推移した。11月28日109.39円、29日109.56円、12月2日109.68円、3日109.16円、4日108.57円で推移した。

財務省が11月28日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、11月上旬の原油輸入平均CIF価格は、44,693円/klで、前旬比337円高、ドル建て65.44ドルで前旬比0.09ドル高。為替レートは1ドル/108.58円だった。

そのような中で、12月2日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油は同0.1円の値上がり、灯油は同横ばい(18%ベース)だった。ガソリン・軽油が5週連続の値上がり、灯油は2週ぶりに値上がりが止まった。この週(12月第1週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社1.0円の値上げとなった。

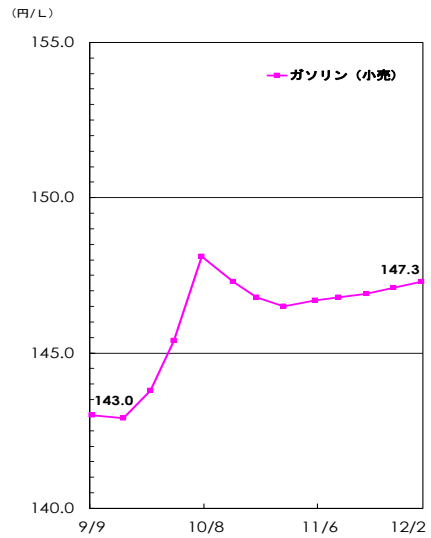
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/24 ~ 11/30	3,546 ▲ 192	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	90.5 ▲ 4.8	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	11/30	11,128 ▼ -247	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	12/2	59.19 ▼ -1.31	▼ -1.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/2	55.96 ▼ -2.05	▲ 3.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月上旬	65.44 ▲ 0.09	▼ -16.27
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,693 ▲ 337	▼ -13,387
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.58 ▼ -0.67	▲ 4.42
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/2	110.68 ▼ -0.87	▲ 3.96



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/24 ~ 11/30	927 ▼ -14	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	791 ▼ -129	▼ -	
	輸出	"	103 ▲ 10	▼ -	
	在庫	11/30	1,515 ▲ 33	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/26 ~ 12/2	59.3 ▲ 0.3	▼ -1.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/26 ~ 12/2	55.8 ▲ 0.9	▲ 2.9
		(TOCOM/中部)	12/2	57.5 ▲ 0.5	▼ -4.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/2	147.3 ▲ 0.2	▼ -4.0	

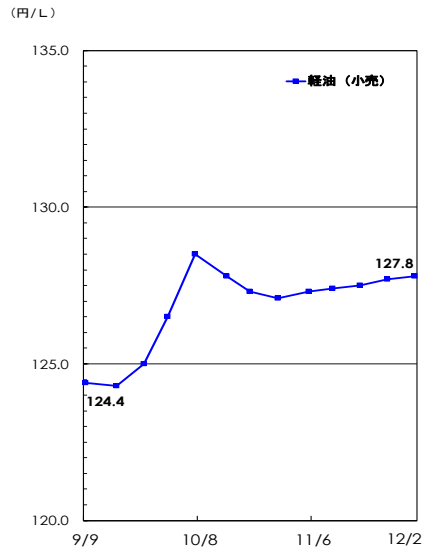
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

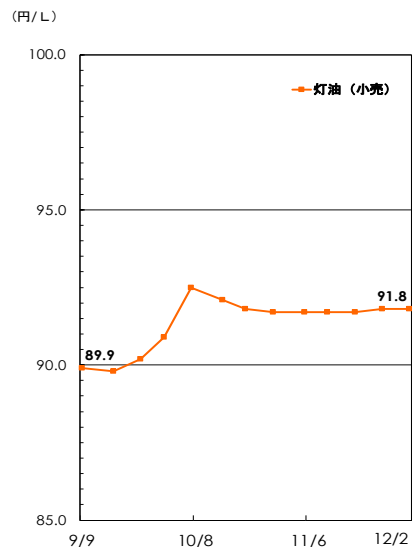
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/24 ~ 11/30	753 ▼ -123	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	602 ▼ -53	▼ -	
	輸出	"	152 ▼ -23	▲ -	
	在庫	11/30	1,562 ▼ -1	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/26 ~ 12/2	62.2 ▲ 0.1	▼ -1.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/26 ~ 12/2	64.4 ▲ 0.7	▲ 1.7
		(TOCOM/中部)	12/2	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/2	127.8 ▲ 0.1	▼ -3.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/24 ~ 11/30	367 ▲ 52	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	403 ▲ 124	▲ -	
	輸出	"	39 ▲ 36	▼ -	
	在庫	11/30	2,760 ▼ -76	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/26 ~ 12/2	62.2 ▲ 0.6	▲ 0.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/26 ~ 12/2	60.6 ▲ 1.3	▲ 1.1
		(TOCOM/中部)	12/2	62.0 ▲ 1.8	▲ 0.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/2	91.8 ▲ 0.0	▼ -3.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

12月4日のNYMEX市場WTI原油は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報での原油が前週比490万バレル減と市場予測(同170万バレル減)を大きく上回る取り崩しの報告、5日のOPEC総会・6日のOPECプラス閣僚会合での現行減産協定延長・減産拡大の合意への期待感から、大幅続伸した。ただ、EIA在庫週報で、ガソリンは340万バレル増、中間留分は410万バレル増と市場予想を上回る積み増しとなった。1月限の終値は前日比2.33ドル高の58.43ドル、2月限の終値は同2.31ドル高の58.34ドル。

EIAによると、12月2日時点のガソリンの小売価格は、前

週比0.4セント値下がり1ガロン2.575ドル(75.2円/ℓ)、ディーゼルは同0.4セント値上り3.070ドル(89.7円/ℓ)となった。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは2週ぶりの値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年11月24日～11月30日に休止したトッパー能力は13.5万バレル/日で、前週に対して1.0万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は354.6万klと、前週に比べ19.2万kl増加。前年に対しては13.7万klの減少。トッパー稼働率は90.5%と前週に対して4.8ポイントの増加、前年に対しては3.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.5%減、ジェット/12.0%増、灯油/16.5%増、軽油/14.1%減、A重油/24.4%減、C重油/3.2%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は15.2万kl(前週比2.3万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では灯油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は79.1万kl(対前週14.0%減)と2週振りで減少となり、15週連続で100万klを下回った。ジェット4.3万kl(対前週35.3%減)、灯油40.3万kl(対前週44.6%増)、軽油60.2万kl(対前週8.0%減)、A重油17.3万kl(対前週6.2%減)、C重油19.3

万kl(対前週7.2%増)。

(単位:千kl)

	今週 (11/24 ~ 11/30)	前週 (11/17 ~ 11/23)	前週比
ガソリン	791	920	▼ -129 (-14%)
ジェット燃料	43	66	▼ -23 (-35%)
灯油	403	279	▲ 124 (44%)
軽油	602	655	▼ -53 (-8%)
A重油	173	184	▼ -11 (-6%)
C重油	193	180	▲ 13 (7%)
合計	2,205	2,284	▼ -79 (-3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月30日時点の在庫は、ガソリン、ジェットで積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは151.5万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては24.3万kl少ない。

灯油は276.0万kl、前週差7.6万kl減。前年に対しては6.1万kl少ない。

軽油は156.2万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては20.2万kl少ない。

A重油は71.3万kl、前週差2.1万kl減。前年に対しては16.4万kl少ない。

C重油は204.7万kl、前週差3.2万kl減。前年に対しては6.3万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (11/30)	前週 (11/23)	前週比
ガソリン	1,515	1,482	▲ 33 (2%)
ジェット燃料	962	942	▲ 20 (2%)
灯油	2,760	2,836	▼ -76 (-3%)
軽油	1,562	1,563	▼ -1 (-0%)
A重油	713	734	▼ -21 (-3%)
C重油	2,047	2,079	▼ -32 (-2%)
合計	9,559	9,636	▼ -77 (-0.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月26日～12月2日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、11月26日～12月2日の間、ガソリン112～114円台で値上がり、軽油62円台で値上がり、灯油61～62円台で値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン114円台でほぼ横ばい、軽油64～65円台でわずかに値上がり、灯油59～60円台で値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン109円台で出入り後わずかに値下がり、軽油63～65円台で大きく値上がり、灯油60～61円台で値上がり後大きく値下がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社1.0円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月26日～12月2日の製品スポット市況は、11月19日～25日平均と比べ、全ての油種・取引で値上がりした。

直近の陸上スポット価格(11/26～12/2、千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は0.1円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は1.3円の値上がり、軽油は0.9円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.9円の値上がり、灯油は1.3円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。

12月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (11/26～12/2)	前週 (11/19～11/25)	前週比
レギュラー	59.3	59.0	▲ 0.3
灯油	62.2	61.6	▲ 0.6
軽油	62.2	62.1	▲ 0.1

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (11/26～12/2)	前週 (11/19～11/25)	前週比
レギュラー	55.8	54.9	▲ 0.9
灯油	60.6	59.3	▲ 1.3
軽油	64.4	63.7	▲ 0.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/26～12/2実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.3	▲ 0.9	▲ 0.6
灯油	▲ 0.6	▲ 1.3	▲ 0.9
軽油	▲ 0.1	▲ 0.7	▲ 0.4
A重油	▲ 0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

12月2日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の147.3円、軽油は同0.1円高の127.8円、灯油は18%ベースで同横ばいの91.8円(1%ベースでは同横ばいの91.8円)。ガソリン・軽油は、5週連続の値上がりで、灯油は2週ぶりに値上がり止まった。ガソリンは、都道府県別には、値上がりが26道府県、横ばいが10県、値下がり11都府県となった。全国最安値は徳島県の140.6円(前週比横ばい)、その次に安いのは、埼玉県の141.9円(同0.4円安)、最高値は長崎県の157.9円(同0.6円高)。最も値上がりしたのは1.1円高の宮崎県(151.6円)、横ばいは鹿児島県等10県、最も値下がりしたのは0.7円安の京都府(150.5円)だった。

先週の原油コストはわずかに値上がりしたが、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。今週は、原油価格は値上がりし、為替レートも円安となり、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。次週(12月9日)のガソリン・灯油の小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (12/2)	前週 (11/25)	前週比	直近高値
レギュラー	147.3	147.1	▲ 0.2	08/8/4 185.1
灯油	91.8	91.8	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	127.8	127.7	▲ 0.1	08/8/4 167.4

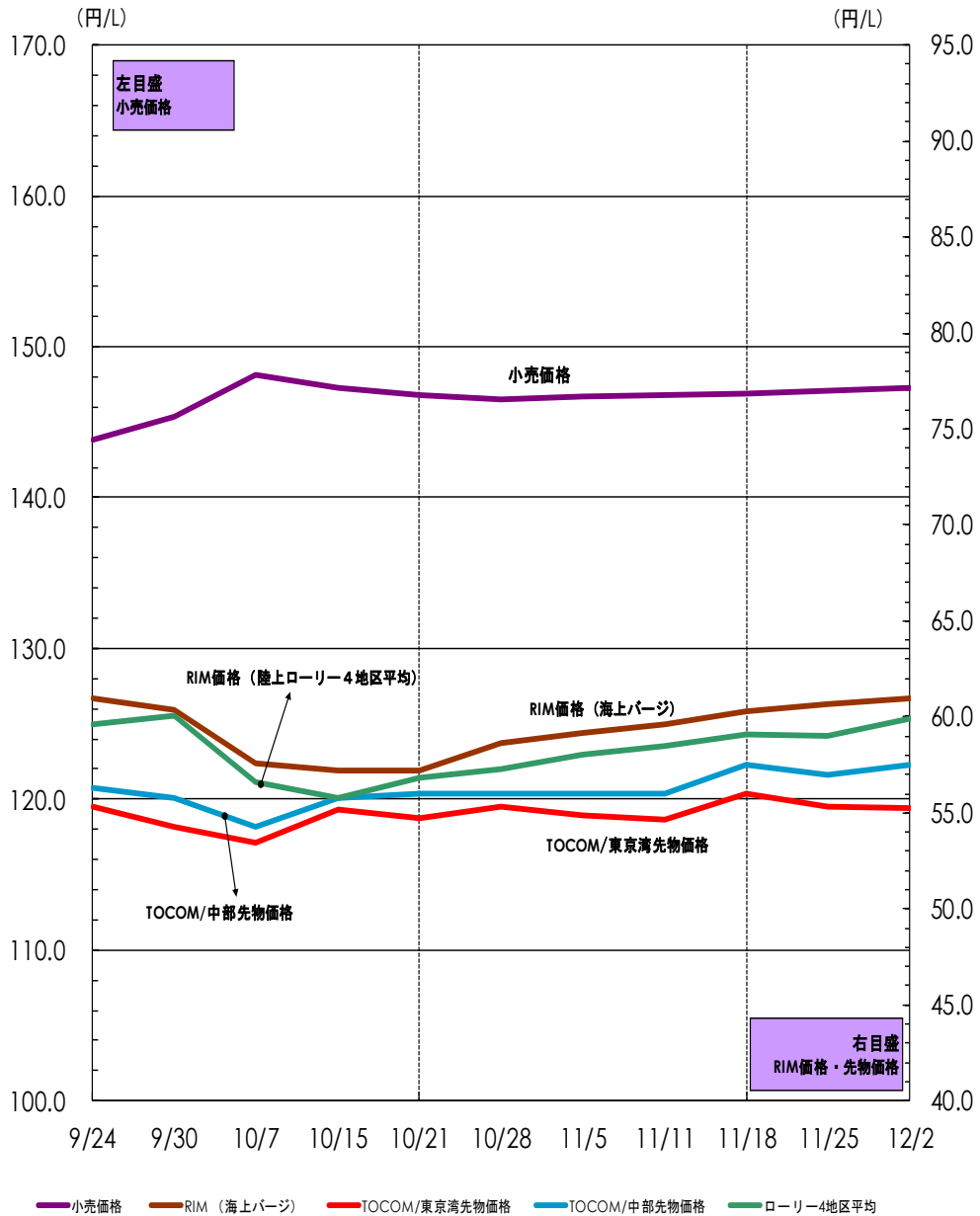
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/9/24 ~ 2019/12/2)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第35号)の公表は、12/13(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。